

第23回少年の主張発表会

Where there's a will, there's a way
(意志あるところに道は開ける)

「村民の青少年健全育成に対する関心を高め、理解を深めてもらう」と毎年行われている「少年の主張発表会」が先月8日、公民館講堂で開催されました。迎えて23回目となる今年の発表会では小学生4名、中学生6名が会場に詰めかけた家族などの前で、力強く発表しました。

【小学生の部】



和納小学校
6年 大岩 直史さん

「バレーボールをめざして」

誰にでも、小さい頃からスポーツと続けてきたものがあると思う。僕は3歳の頃スイミングに通い始め、なんと8年間もスイミングを続けている。自分がこんなに長くスイミングを続けていられるのはなぜだろうと考え、3歳からのスイミングの歴史を振り返ってみた。

僕のスイミングの歴史を紹介しながら、その途中、感じたり考えたりしたことを話してみたい。



岩室小学校
6年 金子 さつきさん

「動くという」と「ガソリンスタンドでのお手伝いを通して」

おじいちゃん、おばあちゃんが働いているガソリンスタンドでお手伝いをした。わたしは教えられた通り、窓をふいたり、お茶を出したりした。「お茶はお客さんが帰ったらすぐかたづけろ」と注意された時も、そうかと思いつくその通りにした。わたしは自分なりにがんばってお手伝いをしてきた。しかしそのうちに、わたしは、母の働き方が自分とは少し違うことに気付く。母はお客さんが来たらずく出て行くように、いつも準備していた。お客さんを待た

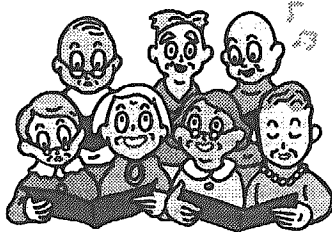
せるように決まっていた。母の働く姿を後ろで見つめながら、わたしは「働く」ということの意味を考え始めた。



和納小学校
6年 鷺澤 博美さん

「母の祖母について」

家の中で、いろいろな仕事を楽しまながらいる祖母。それだけでなく、家の外では、たくさんの友達と元気に過ごしている祖母。そんな素敵な祖母は私の尊敬する人の一人です。祖母と一緒に生活をしていて、感じたことや思っていることなどを、普段はなかなか言えないので、この場で少し紹介したいと思います。

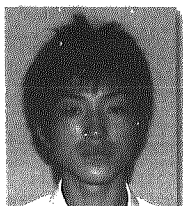


岩室小学校
6年 近藤 慎也さん

「存在」

ものには、必ず何かしらの存在する理由がある。道員の場合、使うために作られた存在なので存在する理由と同時に、使われる理由が出てくる。生き物は、皆生きることを本能としている。人の存在という点についての疑問は、ひたすら考えるしかないのだ。時々でもいい。なんとなく生きるだけで、考えてほしい。なぜか生きていくのかを。時間はとてもかかると思う。でもきくと出ると思うから、自分なりの答えが、きっと。

【中学生の部】



岩室中学校
1年 山田 裕貴さん

「目標としてる人」

はつきりとした夢のない僕にも目標はある。それは6歳年上の兄だ。身近な所に目標があるとこころは、なかなか幸せな事だ。その兄から見習いたい事がいっぱいある。見知らぬ人への親切、子どもと楽しく遊ぶための努力、僕の大好きなバスケットボールの指導、地域の人へのあいさつなど。だから、その事を考えながらこれからの日常生活動の過ごし方について思う事。



岩室中学校
2年 真島 啓さん

「ベイスターズについて」

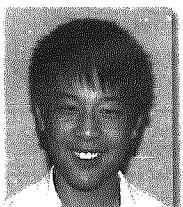
僕はプロ野球チームの「横浜ベイスターズ」の大ファンです。僕はベイスターズを応援し続けることによって、打撃や守備の「ソ」などを学ぶことができると。そしてこのまま野球を続け、いずれはベイスターズに入団するのが僕の将来の夢です。入団できたベイスターズの優勝のために貢献できる選手になりたいです。僕はこれからもベイスターズが絶対に日本一になると信じ、応援し続けます。みなさんも僕と一緒にベイスターズを応援しましょう。



岩室中学校
2年 後藤真裕子さん

「大切な家族」

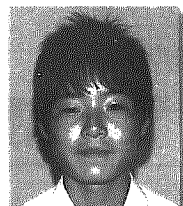
私の家では、毎年家族全員でスキーやキャンプや温泉旅行に行くことが恒例行事となっていて、小さい頃の私は家族みんなで外出することが楽しくて仕方ありませんでした。しかし、いつの間にか家族全員がそろって時間も減り、私も家族と一緒に過ごすことを避けるようになっていました。しかし、家族みんなが貴重な時間であるともみんながいるからこそ楽しく感じるといつか気づき始めました。



岩室中学校
3年 阿部 慶太さん

「ふり返ってみると」

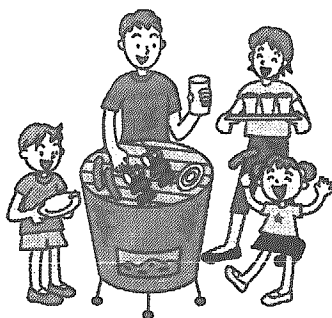
僕は冬に母とけんかした時の



岩室中学校
3年 三上 紘輝さん

「部活動に熱心に取り組んでみる」

僕は今年、部活動に熱心に取り組んでいる。その理由は通信陸上をやつてもよかったから。そのために標準記録を突破する必要がある。1年の時は0・3秒、2年の時は3秒届かずいけなかった。だから今年こそはと思っていた。そんな矢先に顧問の小塚先生が離任した。直後はショックだったが先生から教えてもらった事を守りがなくてはならないと思った。だから今年も最後の大会にいきなり、一つでも上の大会にいけるようにがんばりたい。



▲ジュニア合唱団による発表



▲岩室中代表として西瀬・蒸地区大会に出場する後藤さんの力強い主張